

「課外研修から学んだこと」

育成調教技術者養成研修 第32期生 和田 大輝

私たちBTC研修生は、日々の騎乗訓練・馬の手入れ・厩舎作業以外に、月に一度くらいの頻度で課外研修を行っています。課外研修は研修生同士の絆を深め合ったり、研修生と教官とのコミュニケーションを図ったりと、重要なイベントとなっています。さらには、日々の研修生活からのリフレッシュも兼ねており、新たな刺激を得ることが出来ます。

4月にこの研修が始まり、環境にも徐々に慣れてきた頃に、最初の課外研修を行いました。近くの小川で山菜を収穫するという内容でしたが、仲間の新たな一面を見ることができ、研修生同士の距離をぐっと縮めることができました。また、新たな土地での生活が始まったばかりだったので不安もありましたが、この土地のことを少しですが知ることができ、不安も小さくなったように感じました。

5月にはえりも岬見学、6月にはアポイ岳登山と、それぞれ課外研修を行いました。特に、アポイ岳登山では協調性というものを学びました。体力には比較的自信があり、山自体の標高も800mそこそこで高くなかったのですが、足場が悪く今にも雨が降り出しそうな天候で、かなりキツかったことを覚えています。そんな時に励ましてくれたのは研修仲間であり、つらそうな仲間を励ましたのは自分自身でした。身をもって励ましあうことの大切さを知ることができ、これからの研修で仲間があるいは自分が壁にあたったときに活かせる体験となりました。このように、馬のことから少し離れるからこそ学べることもあります。

一方で、牧場見学や牧場実習、競馬場の見学といった、馬のこと・競馬のことを実際に目で見て聞いて、そして動いて学ぶ課外研修も設けられています。このような課外研修は、

馬の世界についての知識が無く未熟な私たちにとっては、非常に大切な学びの場です。BTC研修に参加する前の生活では体験することの無い、貴重な体験をすることができるので、ただ「すごいな〜」で終わらせることがないようにすることが重要です。

初めて見るものがほとんどなので、とても感動したりしますが、疑問を持ったり気になる点を質問して、新たなことをどれだけ自分のものにできるのかで、このような課外研修が活きてくると思います。普段の研修でも向上心をもって行動するように心掛けていますが、環境が変わることが刺激となり、自然と向上心をもてて自分としては充実した研修が送れます。下半期にはJRAでの実習があるので、JRA職員の皆さんから少しでも多くの知識を得られるよう、気を引き締めて望みたいです。

最後に、一年間の研修を終えたら私たちは牧場に就職し、そこで即戦力になれるように日々頑張っていると思います。課外研修で学んだことは必ず将来活きると思うので、今は楽しむときはしっかり楽しんで、気を引き締めるときは気を引き締め、メリハリのある研修生活を送って行きたいです。

